

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):経済学部 4年

参加プログラム:全学交換留学 派遣先大学:シンガポール国立大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

シンガポール国立大学

シンガポールで第一位の総合大学。世界大学ランキングでも25位程度でアジアでも最も評価の高い大学の1つ。

留学した動機

- ・英語を使って勉強、活動をし、英語の能力を伸ばしたかった。
- ・経済成長著しいと言われるシンガポールで生活し経済状態等を肌で感じるとともに政治・経済を学びたかった。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2013]年 経済[学部] / 修士 / 博士[4]年の[7]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 休学 / 留学
- ③留学期間: 2013年 8月 ~ 2013年 12月 学部 / 修士 / 博士[4]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[]年 学部 / 修士 / 博士[]年の[]学期から履修開始 ~~卒業論文のみ~~
- ⑤就職活動の時期: 西暦[2013]年 学部 / 修士 / 博士[3]年の[12]月頃に (行った / 行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[86]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[8]単位
留学後の取得(予定)単位[4]単位
- ⑦入学・卒業 / 修了(予定)時期: 西暦[2010]年 [4]月入学 西暦[2014]年 [4]月 卒業 / 修了
- ⑧本学入学から卒業 / 修了までの期間: [4]年[0]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由:
大学4年の冬学期に留学すれば、休学することもなく交換留学で留学できるため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

正式に派遣が決定すると、NUS側からメールが届くのでそれに従って入学手続きを行えばよい。
特に難しいことはないが何段階もあり、それぞれで手続き開始、終了時期が違うので忘れずに手続きを行うことを意識しておけばいいと思う。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは student pass というものを発行する。
指示通りに手続きを進めれば何も問題がない。
Student pass は registration day の日に受け取るが、registration day までに現地に到着できなければ、後日 ICA というビザを扱う役所に取りに行くことになる。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に何もなし。
半期だったので健康診断等も要求されなかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

クレジットカードの保険と、海外旅行保険を利用した。
海外旅行保険は1学期間すべてをカバーしないものもあるので注意が必要。
個人的には内定式があったので帰国前帰国後で別々に保険に加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

【履修】【単位】【試験】
渡航は期末テストの後だったので履修、試験等に問題は特になかった。
留学中は東大での単位が取れなくなるので、もし4年の冬学期に留学に行く場合は夏学期までで卒業を確定させておいた方が気は楽になる。
ゼミは単位分割が出来るので、夏学期分のみのゼミの単位を獲得した。
【論文】

4年の夏学期に卒業論文の単位申請手続きをして、1月に提出した。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発前の英語レベルはTOEFL85点程度であった。事前に英語の準備をする余裕がなかったので、初めは少し苦労した。シンガポールでは英語を聞き取るのがつらいのでせめて自分の意思を表現できるように英語での表現能力はあげておくことは大事だと思う。

英語での表現の出来る幅が広がると相手の言おうとしていることを予測しやすくなるのでリスニングにも役立つと思う。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日本の食べ物等は持っていけば、友達に配ることが出来たりするのでいいと思う。

NUSの場合学期が始まるのが8月と早いので期末テストが終わってすぐ出発することになる。

4年の冬学期に留学する場合、4年の夏学期は就活、期末テスト、ゼミ、留学の準備とかなり忙しくなる可能性があるため、まとまった時間が取れないと思っておいた方がいい。余力があるなら、単位は3年のうちにとっておいて、4年の夏学期にあまり単位をとらなくても卒業できる形にしておく負担は小さくなると思う。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

- Professional Communication
- Singapore, Asia and American Power
- Global Economic Dimensions of Singapore

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

・概観

基本的に授業はLectureが週に1回でTutorialが2週に1回。1回の授業は95分。

Lectureは東大と同じような授業、Tutorialは大学のゼミのような形式になっている。Tutorialは少人数でディスカッションをするなど授業の内容を深めるようになっている。受け身ではない形は刺激があつてよかった。

Lecture, tutorialともに事前に文献を読んでいく必要があり意外と負担が重い。

・Professional Communication

レクチャーはなく週に2回チュートリアルがあつた。授業の内容は現地の学生が職場でのコミュニケーションやプレゼン等を学ぶもので、ほぼ毎週発表や課題があつた。

具体的には、peer teaching, blogging, interview, proposalを半期の授業で行つた。Peer teachingはグループごとにテーマについて調べ、発表を行い、bloggingは半期の授業の中で4回ほどブログを書く。Interviewは就職活動の時のresumeの書き方等を学び、実際に全員でinterviewの練習を行う。Proposalはシンガポールや身の回りの課題に対して解決策を提示し、プレゼンで発表をするというものだった。全体を通してグループのメンバーとディスカッションをしたり、人前でプレゼンをしたりする機会は他の授業と比べてとても多かった。

・Global Economic Dimensions of Singapore

シンガポールの経済について学ぶが、理論を使った分析というよりは航海時代以降の歴史から始まり今のシンガポールの基礎がどのように出来たかを学ぶとともに、独立後の施策を見ながらどのような意図があつたかを学ぶ。東大の経済の授業だと「日本経済」に近い。チュートリアルでは、lectureの内容に沿って、lectureを補完するような形で進められた。

・Singapore, Asia and American Power

アメリカの政治・経済・軍事力等がアジアやシンガポールに及ぼす影響に関する授業。アメリカ政治や中国・インドの台頭、石油権益、ユダヤ人のロビー活動等国際情勢にインパクトのある内容を扱った。

チュートリアルは基本的に事前に読んだ文献に関してのディスカッションと発表という形だった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

3科目を履修。

週に25~30時間程度勉強していた。

④学習・研究面でのアドバイス

英語で文献を読むことは知らない単語も多く予想以上に大変だった。実際に文献を読み始める前に簡単にネットで文献が取り扱っている内容について読んでおいた方が楽になる。また何回も文献を読む時間はないので1回で読んで終わりにできるように内容をおおまかにまとめながら読んだ方が良いかもしれない。教授が授業で言っていることは基本的には分かるが、授業の内容に関して知識がないとおいていかれることもあるので、Readingの負担は大きいが予習は出来る限りした方がよい。

またディスカッション等も言い回しには苦労した。話す練習をしながら使える言い回しを覚えていくといいと思う。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

とにかく話しながら言葉の壁を越えていくしかない。うまく伝わっていないことがあれば相手が直してくれるのでその正しい表現を覚えたほうが手っ取り早いと思う。また現地の人結構英語は適当に話しているのであまり気負う必要もないと思った。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

寮に入った。寮は University Town (Utown)にあるものと、Kent Ridge キャンパス側にあるものとあるが、私は Utown の中の、College of Alice and Peter Tan という寮に入った。

入学手続きの際に、寮の希望を聞かれるがどの寮に入るかは選択する際にはもう選択肢が残っていなかった。エアコンのあるなしとアパートメント(6つの個室と共有スペースが独立している)に入るか個室に入るかについては希望が出せ、希望通りになった。エアコンはあってもなくてもそこまで大きく金額は変わらないのであった方が良くもしいないが、そこまで使うわけではない。アパートメントか個室かは完全に個人によるが、アパートメントの場合同じアパートメントに入った学生と仲良くなる事が出来る。ただし、共有スペースに人が集めるとうるさくなることもままある。

家賃は meal plan 付きで 1 学期間でおおよそ 3000 ドル(24 万程度)でそこまで安いという訳ではないが、入らない選択肢もないと思う。Meal plan はそこまで美味しくないの、meal plan のいない寮(Utown Residence 等)に入り、学内の他の食堂を利用するのも手かもしれない。

基本的に Utown にある寮は新しくとても綺麗。キッチン、コインランドリー等もある。また各階にはラウンジもある。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

【気候】

常に暑い。基本的に半袖半ズボンで過ごすことが出来る。室内はどこにいても寒いので上着は持っていった方がよい。雨は良く降るが、大学内は雨がいつ降っても移動できるように屋根がついた道が整備されているので、特に傘は必要ない。外出する際に、折り畳み傘があってもいいがなくても困らない。

【大学周辺の様子】

基本的に何も無い。一番近い街は Clementi で徒歩 10 分ほど。Clementi mall やフードコート等商業施設が多くあり、外食や買い物に重宝する。

【交通機関】

バスと電車、タクシーが基本的な交通機関。

バスはシンガポールを網羅しているが、停留所が多く時間がかかる。バスでシンガポールの中心地に出ると 30~40 分ほどかかる。

電車は場所によっては行きにくいところもあるが基本的には普通に使える。スピードはそんなに速くないので、意外と時間がかかる。

バスも電車も時刻表がなく、時間帯によって運行間隔を変えるシステムになっている。混雑する時間帯は 5 分から 8 分間隔、混雑しない時間帯は 15 分間隔ほど。その結果待ち時間がよめないで思いのほか時間がかかることがある。

タクシーは日本と比べれば安い、あんまり頻繁に乗るとあつという間にお金が無くなる。高速に乗ってしまえばとても速い、基本的にスムーズに目的地につく。夕方は利用者が増え捕まらないことが多いので、予約しておくのが無難。

【食事】

Meal plan がついている場合は、朝夜は食事が寮の中で食べられる。食堂はどこも 8 時 9 時ごろまでやっているの、学内ではだいたいいつでもご飯が食べられる。夜の 2 時までは学内で軽食の delivery サービスもある。

【お金の管理方法】

クレジットと現金をよく使った。海外で使えるキャッシュカードを作っていかなかったの、現金を小分けして保管し、適宜シンガポールドルに換えて使っていた。海外でお金をおろせた方が便利。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はとても良い。

室内は寒いので上着は必要。またエアコンやファンをつけばなしにすると風邪をひくこともあるので気をつけた。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

毎月の食費で 1~2 万円程度

タクシー代含む交通費や携帯のプリペイド、必需品の購入などで 1 万程度

・留学に要した費用総額とその内訳

60~70 万円程度

寮の料金 24 万円

食費・生活費・観光 20 万円ほど

航空券 24 万円(内定式のため 2 往復した)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

「長島雅則奨学基金」

10万円×5期間=50万円

東京大学の留学奨学金のページから情報を取得し、経済学部を通じて申請した。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

<スポーツ>

現地の友達、留学生の友達とサッカーをして遊んだ。

<旅行>

1週間の休暇の間にベトナムのホーチミンに旅行した。

<週末>

週末は現地の友達と出かけた。主に美味しいご飯を求め、外食していた。

<その他>

・Anime Festival Asia (<http://www.animefestival.asia/>)

アジアにおける日本のアニメのフェス。2013年はマレーシア、インドネシア、シンガポールで開催し、3日間で10万人が来場した。今年は水樹奈々とTMRが目玉で、進撃の巨人等のアニメや、ホリプロ等の芸能事務所も出展し盛り上がった。

今回は知り合いの方が運営をしていたのでお手伝いをしたが、シンガポールにおける日本のアニメコンテンツの人気度や運営の仕方等を知り、いい経験をする事が出来た。また今回の経験を通し、日本のコンテンツを売り込む各民間主体の取組等を知ることが出来た。

・恋するフォーチュンクッキー-Singapore ver. (<http://www.youtube.com/watch?v=08AFj0n37jY>)

日本からの留学生4人でシンガポールの観光地を背景に現地の方・観光客にAKB48の恋するフォーチュンクッキーを踊ってもらい、観光ガイドのようなものを作成した。

撮影の過程では、シンガポールのルールの厳しさや国民性を知り、またシンガポールを様々な側面から学ぶことが出来た。また公開後は現地で思わぬ反響があり、新聞数社からの取材を受け、シンガポール人の友達や動画に対するコメントや反応を見て、シンガポールの方がどのようなことを考えているのかを垣間見ることが出来興味深かった。

・Oishii Japan

日本食の展示会。日本から様々な企業が参加し販売している様子が見れた。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

寮には教授と一緒に住んでいて、留学生のことを気にかけてくれている。また、学期の最初にはTea Partyが開かれるなど、大学になじめるように配慮してくれているが、それ以外は基本的に放任。ただ、留学生用のオフィスがあり、定期的にメールも来るので、こちらから何かをお願いすれば対応してもらえると思う。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

University Townという学生寮はとても新しく綺麗。設備も整っている。中にはジム、プール、体育館、芝生、PC Commons、Mac Commons、スターバックス、食堂、レストラン、薬局、書店等があり、生活に必要なものはある程度なんでもそろそろ。

Kent Ridge Campusの方には、各学部とそれぞれについての食堂、図書館、運動場、保健センター、ホール等がある。

建物は新しいものもあるが、基本的には普通の建物。

大学の中は基本的にはどこでもwifiが通っている。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

就職活動後に留学したため、大きな影響はなかったが、留学準備と期末試験、就職活動等によりスケジュールが厳しかった。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

なし。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

現地でリクルートや人材紹介会社が日本人留学生を斡旋しているようなので、機会があれば参加すると良い。それ以外で留学期間中に出来ることは多くないと思うので、留学を楽しむことが大事だと思う。シンガポールと日本を比較したり、日本企業の取組を見たり、OB訪問という形でなくても現地で働く駐在の方とお会いしたりするなどすれば、進路を決める際の判断材料になることは大いにあり得る。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:経済産業省)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)

6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学前の目標をある程度達成できたうえ、さまざまな課外活動を通して知識、経験、人とのつながり等で得るものごとでも多かった。

何か一つ飛躍的に成長したものはないが、毎日少しずつ成長することが出来たのではないかと思う。特に英語を使って人とどうコミュニケーションをとり協働するかに関しては一貫して努力して成長できたと思う。

②留学後の予定

卒論を提出し、ゼミに出席する。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学が半期で終わると慣れてきた頃に終わってしまうので、行けるなら1年で行った方が良いかもしれない。

シンガポール留学は中華系、アジアの人がとても多いので他の英語圏の留学とはまた違った経験が出来て面白いと思う。またシンガポールで暮らしてみたことで、イメージとは違ったシンガポールの姿を見ることが出来たし、国土が狭いので現地駐在の方に会いやすいことも良かった。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

岩崎育夫『物語 シンガポールの歴史』

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 法学部第二類公法コース4年

参加プログラム: 全学交換留学 派遣先大学: NUS

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) ③.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

<p>派遣先大学の概要 シンガポールのトップ校であるシンガポール国立大学(NUS)。留学生の数が多く東南アジアはもちろんのこと英語圏であるため欧米圏からの留学生も多い。お金がじゃぶじゃぶ投資されているため大学の施設が充実している。</p>
<p>留学した動機 NUS に友達がいたこと、シンガポールの官僚機構を学びたかったこと、シンガポール経済を肌で感じたかったこと、東南アジアに足を運び東南アジア諸国の発展度合いを見たかったこと、競争社会と言われるシンガポールの学生の質を見たかったこと</p>
<p>留学の時期など ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2013]年 学部 / 修士/博士[4]年の[夏]学期まで履修 ②留学中の学籍: 休学 / 留学 ③留学期間: 2013年 8月 ~ 2013年 12月 学部 / 修士/博士[4]年時に出発 ④留学後の授業履修: 卒業単位を揃えているためなし ⑤就職活動の時期: 西暦[2013]年 学部 / 修士/博士[4]年の[4]月頃に (行った / 行う予定) ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[96]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[0]単位 留学後の取得(予定)単位[96]単位 ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2010]年 [4]月入学 西暦[2014]年 [3]月 卒業 / 修了 ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [4]年[0]ヶ月間 ⑨留学時期を決めた理由: 就職で内定を獲得後すぐに海外に飛んで東大以外の大学の授業を受けたかったから。</p>
<p>留学の準備 ①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 締め切りに気をつけること ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) 留学生担当の職員の指示通り行うこと。 ③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等) NUS 学内に medical center があるため特に心配はなし。ただ常備薬は持って行くといい。 ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) なし。シンガポールは安全。 ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 法学部の場合は期末試験が通常9月にあるため留年したくなければ繰り上げ試験を受けて卒業単位をさっさと取ってしまうこと。 ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) なし。 ⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 衛生用品や女性の場合化粧品など。</p>
<p>学習・研究について ①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合) Government and Politics of Singapore International Political Economy Chinese 4 ②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等) 授業には毎週の講義形式のものと、隔週でクラスをいくつかの班毎に分けて行われる議論形式の Tutorial と呼ばれるものの二種類があります。各講義の前には読み物の課題が出されます。Tutorial の負担は科目や回や教授によって分散しますが、事前課題に基づいて議論したり班毎に発表をしたりします。したがって全体としては予習が中心になる人が多いです。予習は1科目あたり一週間4時間くらいでした。 ③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など 3科目。1科目4単位、毎週2時間の講義と隔週でそれに加える形でもう2時間の Tutorial がある。予習は読み物の分量と各人の速さによるところが大きい。勉強はした方が良いに決まっているが交換留学生に対しては成績は甘めに付くので思い切って学習面以外での遊びに励むことも忘れてはならない。勉強は最悪教科書を大量に買い込んで帰</p>

国してからでもできるので。

④学習・研究面でのアドバイス

東大の授業でやっていることとやることは同じです。教科書はやはり読んだほうが良い。シケプリは存在しないので教科書が一番の味方です。あとはノートをしっかり取っている人を授業内で友達に作る事が大事です。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

なし。ただ、シングリッシュというものがやはりシンガポールでは存在しているので時折聞き取りにくいですがネイティブ並の力があれば特に不自由は感じないです。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Tembusu Residential College と言う NUS の敷地内のマンションみたいな寮に住んでいました。5 カ月間の滞在と朝と夜の食事が出て 22 万円程度。寮付きの食事は不味いですがないよりはましです。敷地内には多くのレストランがあり値段も安いので食事プランが付いていない UTown Residence に住むのもお勧めです。ただしこちらは冷房が付いていないです。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

赤道直下ということもあり湿気がすごいです。気温も年中高いです。湿気が嫌いな人にはあまりおすすめできない環境です。寮内には個人の冷蔵庫がないので食品管理には気を付けるべきです。果物だと 1 日常温で置いておくだけで腐ります。革製品も常温で置いておくと 2 日でカビだらけになります。乾燥剤をクローゼットに大量に入れるなど対策をとってください。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は日本並に良い。病気になったら NUS 敷地内の Medical center に行けば保険が効いた価格で診療してくれます。Hawker Center など屋台での外食の際は生焼けの魚介類には気を付けるべきです。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

寮費(朝夜 Meal Plan 込)5 万、遊び 6 万

・留学に要した費用総額とその内訳

航空券往復 10 万、教科書 3 万、寮費(5 ヶ月分)22 万、遊び 30 万、その他 5 万

合計 70 万

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

なし。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

寮でフロア毎に各 House に割り振られるのでその House のスポーツ活動や季節ごとの行事活動に参加しました。長期休暇が学期中に一週間あったので東南アジアで遊んできました。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

充実しています。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

24 時間空いている図書館や PC 室(Mac, Windows 共に完備)もあり充実しています。ジムも毎日空いておりトレーニング機器もしっかり揃っていました。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

内定をもらってから留学に行ったので全く影響なし。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

上記の通り。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

上記の通り。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1. 研究職 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ③. 公的機関(機関名: 霞ヶ関)

4. 非営利団体(団体名又は分野:) 5. 民間企業(企業名又は業界:)

6. 起業(分野:) 7. その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

何をやるにもそうですが強い意志と計算が一番大事です。なんとなく留学すれば英語もできるようになるだろうし成長が見込めるという打算のもとで留学すると失敗します。仮にも数ヶ月、場合によっては 1 年もの期間、更には留年する可能性が一気に高まる留学に行くのであればその時間という犠牲に見合うだけの見返りが返ってくるかしっかりと計算する必要があります。そしてその見返りの大きさは強い意志に比例すると思います。ですからこれをやり遂げてやるぞ、東大じゃなくてここに留学しに行かなければ〇〇ができない/得られない、と言ったような意志を留学に行く前に固めることが肝要です。

②留学後の予定

卒業までの時間をシンガポールから持ち帰った大量の教科書や書物を読み終えることに充てたいと思います。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

東大の授業に不満がある学生は不満を言う前に交換留学などで世界の大学を見てみると良いと思います。私の場合留学を通じて東大の学術レベルの高さに驚かされる結果となりました。また安易に留学に行くのではなく東大では絶対に学べないものを留学先の大学に見出してください。私の場合 NUS でやっている基礎学問レベルが意外と低いこと

に啞然としたこともあり東大の授業の方が遥かに理論を学ぶには適していると思えることが多々ありました。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

NUS の HP

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 法学部第2類(公法コース)4年

参加プログラム: 全学交換留学 派遣先大学: National University of Singapore

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

フルタイムの学部生が約3万人(シンガポール人と東南アジア[主にマレーシア・インドネシア・ベトナム]・中国・インドからの留学生が中心)、欧米中心に海外からの交換留学生在が常時約1000人いる国際色豊かなマンモス大学。

留学した動機

留学に応募した理由は、進路を決めるためにもう1年時間を買いたかったから、短期の留学に行って学部生でいけるなら長期の留学にも行きたいと思ったから。行き先をシンガポールにした理由は、都会なので学内の活動だけでなく学外のインターンなどの機会も多いと思ったから、実際に生活することを通じて多民族国家がどういう困難に直面し、どう乗り越えているのかということへの理解を深めたかったから。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2013]年 学部/修士/博士[4]年の[夏]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 休学/留学
- ③留学期間: 2013年8月～2014年5月 学部/修士/博士[4]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[]年 学部/修士/博士[4]年の[夏]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 西暦[2015]年 学部/修士/博士[1]年の[4]月頃に(行った/行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[97]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[0]単位
留学後の取得(予定)単位[0]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2010]年 [4]月入学 西暦[2015]年 [3]月卒業/修了
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [5]年[0]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由:
3年の夏に短期留学に参加し長期留学も行きたいと思い、最速で行けたのがこの時期だったため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

4月頃にNUS側から正式に留学決定の知らせが来ます。その後は向こうの指示に従うだけです。履修登録、寮の申請など。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

基本的には向こうの指示に従うだけです。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

2学期滞在する場合は Student's Pass(学生ビザ)を取得するために結核とHIVの検査が必要。東大の保健センターで無料で検査してもらえるが、英文の証明書を発行してもらう必要があります。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

クレジットカードについているもののみ。「備えあれば憂いなし」ですが長期の保険はかなり割高なので、現地の治安・衛生環境のよさ、学校付属の医療施設が充実していたこと(交換留学生の身分では診察の料金もほとんどかかりません)、自分の健康状態を考えて、加入しませんでした。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

基本的には向こうの指示に従うだけです。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL 109/120点。特になし。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

休み期間中などに東南アジアを旅行する予定がある場合は「地球の歩き方」などのガイドブックを予め買っておくと良いと思います(現地の Kinokuniya で買えなくもないですが高いです)。Lonely Planet という英語のガイドもあります。が、基本的に情報は古くあまり信用できない感じでした。

あとは味噌汁などお好みで日本食(現地で買えなくもないが高い)。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

(Semester 1)

Chinese 3

International Political Economy

Southeast Asia

Principles of Economics

(Semester 2)

Chinese 4

International Investment Law

Microeconomic Analysis I

Game Theory & Applications to Economics

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

授業は基本的に Lecture(講義・インプット中心)と Tutorial(少人数・アウトプット中心)の2コマで1組。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

交換留学生の平均は3、4科目、現地のフルタイムの学生は5科目。6科目以上とすることも不可能ではありませんが、周りから超人扱いされます。通常は1科目につき、Lecture(毎週1コマ 1.5h)とTutorial(毎週1コマ 1h or 隔週1コマ 2h)のセットで4単位。科目によりますが、概ね授業時間と同じだけの予習時間をとっていました。中間試験や発表前などはプラスアルファでもう少し。

④学習・研究面でのアドバイス

NUSの授業のレベルは授業コードで1000、2000、3000、4000番台の4段階で示されています。専攻によってまちまちではあると思いますがあえて言うなら、東大の授業より内容が難しいことはなかったですが現地のフルタイムの学生は信じられないくらい勉強します。Lawの授業はL.L.M.(修士)の学生と同じものを受けるので比較的大変でした。語学の授業は、種類こそ東大より少ないものの、会話中心なので実践的だったと思います。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

特になし。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

種類:大学の寮

家賃:朝食・夕食付きで2学期間(約8ヶ月)で約48万円

宿舎の様子:UTownにあるCinnamon Collegeと呼ばれる寮に滞在していました。6人で一つのシャワー・トイレ・ラウンジを共有するタイプの部屋でした。他のスイートメイトはアメリカ人、オランダ人、中国人、韓国人、カナダ人で国籍が偏らないように向こうが配慮していたのだと思います。

見つけた方法:NUSとの手続きの中で寮での滞在を申請しました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候:暑いですが慣れます。東京の8月よりはましです。学内・市内はあちこちに雨よけがあるなど雨対策はしっかりしているので意外と傘は使わなかったです(学内の移動ではまず傘は不要です)。ただ、12月~1月は雨季でしんどいかもしれません。

大学周辺の様子:大学の周りは田舎っぽいです。車がないと案外不便かもしれません。普段の買い物等は徒歩10分くらいのところにある近くのモールでした。中心部まではバスと電車で約40分、車で15分くらい。

交通機関:MRTと呼ばれる電車と、バスがメインです。EZLinkカードと呼ばれるパスモのようなICカードで決済します。タクシーも安いです。(ただしVisaのクレジットカードはタクシーで使えないので注意。)シンガポールは道幅が広く東京と違って思いの外歩いて移動するのが大変です。

食事:ホーカーセンターと呼ばれる外のフードコートのご飯は安くおいしいです。寮のご飯はおいしくないです。フルーツは東京と比べて随分安く、ドリアンなど日本でなかなか手にはいらないものも食べられます。

お金の管理方法:Citibankの口座を持つと便利です。比較的どこにもCitibankのATMがありますし、現地大手のDBSのATMから引き出すこともできます。シンガポール以外の東南アジアの旅行先でも困ることはありませんでした。現地で口座を開く必要があるならDBSが便利(学内に支店あり)です。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

東京よりも治安はいいと思います。学内に保健センターがありますし、大事になっても大病院がすぐとなりあるので不安はありません。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

食費、交通費、娯楽費は平均して月 4 万円くらいだったと思います。食事、日用品に関しては東京よりは物価は気持ち安いです。

・留学に要した費用総額とその内訳

航空賃 往復約 8 万円 (スクート航空とエア・アジアは安いが遅延の可能性大にあります。直行便ならシンガポール航空/ANA、JAL がおすすめ。一応デルタ航空も飛んでいるが時々遅延します。)

寮費(朝食・夕食付き) 2 学期間(約 8 ヶ月)で約 48 万円。

教科書代:ほとんど払いませんでした。普通に買うと高いですが、英語の教科書は世界で広く普及しているので、(特に電子媒体の)入手方法は色々あります。紙媒体が安く欲しい場合は中古を買ったり友達に譲ってもらったりするの手です。

以上合計 90 万円くらい。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

なし。周りを見る限り東大の奨学金は倍率が高いように思う(同時期に NUS に行った人で応募した 3 人の内 1 人しかもらえなかったよう)ので必要なら外部のものも探して応募すると良いと思います。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

スポーツ・文化活動:12 月の Standard Chartered Singapore Marathon に参加しました。(シンガポールではマラソンイベントが年中行われています。)

ボランティア・インターン:Research Assistant として NUS の教授の下で働いていました。また、不定期でイベントで日英の通訳のアルバイトをしました。都会なので働き口は多いと思います。

長期休暇の過ごし方:学期間の休みは一時帰国しました(休み期間も寮に滞在したい場合は追加でお金を払う必要あり)。また学期中に 1 週間程度の休みがあるので東南アジアの他の国に旅行に行きました。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

心配なし。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

主な寮は UTown と呼ばれるキャンパスの一角にあります。その中では、24 時間開放の自習室、24 時間営業しているスターバックス、コンビニ、食堂、ジム、プール、教室が揃っており、非常に便利で過ごしやすかったです。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

淡星会という東大のシンガポール同窓会があるのでそこの方に話を聞きに行くのもありだと思います。その名の通り運動会 OB の方も多いので運動会所属の方はそこをたどるのも良いかもしれません。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- 1.研究職
- 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
- 3.公的機関(機関名:)
- 4.非営利団体(団体名又は分野:)
- 5.民間企業(企業名又は業界:)
- 6.起業(分野:)
- 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

交換留学はディグリーをとる留学ではないので「留学中に何をするか」という点では比較的自由であり、一番大きな意義は「自由な時間を多くもって海外に比較的長期間滞在できる」ことだと思います。自分にとって留学期間は進路を考えるために時間を買う手段であり、同時に他の国の留学生や現地働く日本人の方など学内外の様々な人と接点を持ち進路を考える上で色々話すことができた機会となりました。海外暮らしや留学は初めてではないので、語学などの点では成長というよりは維持あるいは日本にいる間に鈍ってしまった以前のレベル取り戻すということ意識しました。成長という点では地味ですが初めての長期の一人暮らしだったので家事スキルが身についたことが言えると思います。生活をおくる上では学内外でも共通の言葉の英語で話すことがほとんどですが、多民族国家のシンガポール、欧米アジア問わず多くの国・地域から留学生が集まる NUS での生活を通じて、英語は単なるコミュニケーションの手段ではなく、自分の英語の話し方やアクセントが色濃く自分のバックグラウンドを表す、さらには付き合う(付き合える)人がある程度規定されることについて考えさせられました。

②留学後の予定
院試の準備。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

行ってみないとわからないことも多いですが、留学期間を通じて得ようとするものを予め考えておくに限られた時間を充実させることができると思います。あと色々手続きがあって面倒ですが、パスポートとビザに注意しておけばとりあえず大丈夫です。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: 全学交換留学 派遣先大学: シンガポール国立大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 未定

派遣先大学の概要

シンガポール国立大学(National University of Singapore, NUS) はシンガポールを中心とする東南アジア地域ではトップの大学であり、2014年のTimesによるランキングでは東大に次いでアジア第2位であった

1. 2008年現在、学部数は14、他に110の研究機関を持つ。同年のデータによると学生数(入学者数)30,350人(学部生23,330人、大学院生7,020人)、のうち留学生数が10,511人で、実に学生数の3分の1を留学生が占める。周辺の東南アジア諸国・中国・インドなどから本科生を積極的に受け容れているほか、アジア・欧米を中心に世界各国から交換留学生が集まっている。“Towards a global knowledge enterprise: A leading global university centred in Asia, influencing the future”のスローガンの下、アジアの中心に位置しつつも世界的にも認知される大学を目指し、2013年夏には米国Yale大学と共同で設立したYale-NUSが開校した。²

留学した動機

日本で生まれ育ち、視野や価値観が固定化していることにある種の閉塞感と危機感を抱いていた。一度外の世界に出て、これまでとは全く異なる環境に身を置くことでより大局的な視点から、どのような興味関心のもと東大法学部での残りの大学生活を過ごしていくかということや、大学卒業後の進路の指針を決めようと考えた。

高校生の時から大学では留学しようと漠然と思っていたのだが、テレビでNUSを紹介する特集を見てその存在を知るとともに『アジアに留学するのも良いな』とNUSを留学先の選択肢の1つとして意識し始めた。

大学1年の夏あたりから留学について情報収集を始め、2年の秋に交換留学に応募した。その際英語圏の留学先としてカナダとシンガポールの二カ国の選択肢があったが、第一志望をシンガポールにした理由は以下の通りである。

- ①以前シンガポールを訪問した際、多言語・多文化が混ざり合う国際都市としての勢いを感じ、好意的な印象を持っていたため。文化的な興味を持っていたことに加え、欧米に比べ今後経済的にも社会的にも伸びしろのある地域であると考えたため。
- ②推薦状を書いてくださった先生がシンガポール国立大学法学部を高く評価していらっしやったため。
- ③NUS法学部の開講科目を見て興味を持ったため。特にアジア関連の授業、国際人権法関連の授業を受講したいと考えたため

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2013]年 学部[3]年の[夏]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 留学
- ③留学期間: 2013年 8月 ~ 2014年 5月 法学部 [3]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[2014]年 学部 [4]年の[夏]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 西暦[2014~2015]年 学部 [5]年の[4]月頃に(行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[38]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[16]単位

留学後の取得(予定)単位[40]単位

- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2011]年 [4]月入学 西暦[2016]年 [3]月卒業/修了
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [5]年[]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由:

法学部での単位取得の関係からできれば2年次に留学したかったのだが、全学交換留学では前期教養学部からの留学ができず、法学部入学後の出来るだけ早い時期に、と考えた結果3年の夏からとなった。就職活動後の留学という選択肢もあったが、留学で得たものを東大での学習に反映させたいという思いから3年次での渡航を決意した。また、留学期間は当初就職活動などへの影響を考えて4ヶ月にしようと思っていたが、推薦状を書いてくださり、留学前後・留学中を通してお世話になった先生から『折角なら1年行ったほうが良い』とのアドバイスを頂き1学年間とした。時間が経つのは非常に速く、1学年間の留学にして正解であった。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

東大から許可を頂いたのち、留学の3ヶ月前程度より留学先大学へのアプリケーションを行った。オンラインでの諸手続きが中心(NUS側との書類のやり取り、寮の申込、ビザの申込など)。このとき寮やビザについては申込時に100SGD

¹ <http://www.timeshighereducation.co.uk/world-university-rankings/2013-14/regional-ranking/region/asia>

² http://library.criced.tsukuba.ac.jp/educate/pdf/erasmus/2_002.pdf

～200SGD(8,500円～2万円弱)程度の申請費用をクレジットカードで支払い。NUSへの留学自体の申込とは別に法学部留学の手続(科目登録など)や寮の申請などがありシステムは割と複雑なので、留学内定者同士よく情報交換をし、不明点は先方に問い合わせ、必要な作業と締切とを把握しておくことが必要。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは事前にNUSから送られてくるガイダンスに従い、オンラインで個人情報の登録、申請費用の支払を済ませておく。渡航後指定された期間に学内の所定の場所にて手続を行い、約1ヶ月後にビザを取りに行く。手続の際に必要な書類は以下の通り。NUSから発行される入学許可証、オンラインでの登録の際入手した登録票、顔写真(前髪が顔に掛かっていないもの)、HIVとCTスキャンの結果(英語で発行されたもの)。

ビザ発行の審査は厳しく、東大保健センターでのHIV・CTの検査結果(担当医に手書きで英訳して頂き、サインと印鑑を頂いたもの)でも受理されず(HIVのみなんとか説得して受理された)CTスキャンについてはNUSの保健センターで再び受けることとなった(必要な費用は20SGD近く)。但しHIVの検査は確か1学期のみの留学であれば免除される。日本語の書類は英訳されていても原則受理されないの、渡航後すぐにNUSの保険センターで直接検査を受けることも得策かもしれない(但し結果が出るのに時間がかかるので注意。私は受付の人に事情を説明して運良く早めに結果をもらえた。)

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

上記のHIV・CT以外、特に行わず。デング熱が発生することもあると聞いたが、さほど心配要らなかった。基本的に衛生状態が良いのでそれほど身構える必要は無いが、風邪薬、胃腸薬、絆創膏、虫さされの薬などの常備薬は日本製のものを持参した(寮の近くにも薬局があるので現地でもすぐに入手可能)。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

11万円程度の費用が掛かったが、万が一に備え日本で留学保険に加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

線上試験を何科目か受験してから渡航した。柔軟かつ丁寧に対応してくださったのでまずは相談してみることをおすすめする。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発の数年前、TOEFLiBT106点、TOEIC990点、英検1級を取得した。読むことにはそれほど抵抗がなかったものの英語を聞く・書く・話すという機会は圧倒的に不足していた。出発の1年前よりNHKの語学学校に通い、TED TalkやBBCなどを日常的に聴き、また、工学部で開校されているSpecial English LessonのTOEFLスピーキング・ライティング講座を受講していたものの意識して語彙・表現をインプットすることが足りなかったと感じている。日本での語学学習の鍵は主にインプットにあり、それをアウトプットを通して使いこなせるようにするのが留学の意義であると感じる。留学を通して語学力は見違えるように向上するが、留学前の蓄積の多寡が留学中の成長に如実に反映すると感じた。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

欧米への留学と同じようなことを想像していると現地があまりにもアジアすぎてショックを受けるので、アジアに行くのだということをはっきりと認識しておく。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

- Chinese 5
- Public International Law
- Comparative Legal Tradition
- Legal Argument and Narrative
- International Law and Asia
- Human Rights and Asia
- Contemporary Social Issues in Singapore

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

法学部の授業では大量のリーディングが課されるが、時間的制約から全てを消化するのは難しいので取舍選択が必要となる。授業への出席、課外活動、英語のインプット、リーディング、授業の課題などで多忙な日々が続いた。中心となるのは授業なので、ひとまず授業には病気でない限り出席し、発言する機会を捉えて積極的に参加することを試みた。法学部のThio Li-ann教授の授業(Public International Law, Human Rights and Asia)は言語面・内容面ともに最高のレベルで、優秀な生徒の集まる授業に知的好奇心を大いに刺激された。レベルの高い環境に臆せず身を置いたことは今思い返しても本当に良い選択であったと感じる。

学問的な立脚点として自分たちが『アジア』に属することを意識した授業が多かったと感じる。例えば授業中よく耳にした言葉の1つに『Euro-centric』というものがある。西洋とは違う、自分たちはアジアなのだ、というアイデンティティに関する気負いのようなもの、或は、西洋的な価値観や学問のスタンダードがアジアにおいても適用可能なのかという疑問が多くの授業において根底に流れていると感じた。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など
1学期あたり3~4コマの授業を履修していた。

④学習・研究面でのアドバイス

授業と課外活動(ボランティア、語学学習、人との交流、寮の行事など)とのバランスが難しい。とりわけ一科目あたりきちんと予習復習をしようと思うと法学部の場合10時間をゆうに超えるという印象があるため、取捨選択と優先順位付けが大事だと痛感した。

学習のインフラ面は大変整っている。学内の図書館ではオンライン資料が充実していたので、わざわざ図書館に足を運ばなくても簡単に必要な資料が入手でき、またコンセントが随所にあるので場所を選ばず勉強できる。試験前後・試験期間中は過密スケジュールになるので、早めに資料集めや準備を進めておくことを薦める。

① 語学面での苦労・アドバイス等

英語面では常に力不足を感じていたものの、留学後半にかけて慣れてくるにつれ、コミュニケーションの自由度が増してくるのが実感され非常に嬉しく楽しかった。特に最初の一学期は言語環境に慣れようと、人と話す機会を最大限に得よう努めた。授業だけでなく寮の交流会、友人との食事、現地の人脈を活用したネットワーキング、法学部主催の講演会、政府主催の意見聴会などに参加し多様な場面に身を置くよう意識した。また、友人との議論、授業内でのディスカッションやグループプレゼンテーションなどは語学力向上のために大きな助けとなった。学校と寮の往復、学校の授業のリーディングだけではアウトプットの機会が圧倒的に足りず、英語を一言も発しないまま一日が終わってしまいかねないと危機感を持ち、人と話すチャンスは逃さないように意識した。このような積極的な姿勢を見せていたところ、例えば Human Rights and Asia の授業では先生が日本に関するリーディングの分量を増やしてくださり発言の機会を頂くなど、周囲からの理解と手助けを得ることが出来た。また、シンガポールは日常的に多言語を使って生活している土地柄であり、新しい言葉を学ぶ苦労を知っている人が多い。そのためこちらの英語を辛抱強く理解しようとし、英語に関する質問をしても親切に答えてくれるといった寛容さを感じられた。語学学習には最適な環境であると思う。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

寮生活を行っていた。

申請の際希望できるのはルームタイプとエアコンの有無のみであり、宿泊先は向こうから割り振られる。寮はいくつかあるが、メインキャンパスに併設された UTOWN という地区の寮(UTOWN residence, Cinnamon, Tembusu, CAPT, RC4)が最も新しく学内へのアクセスも良く、設備も充実しているのでそれ以外の寮に割り振られた場合は(可能かどうか分からないが) UTOWN に振り替えてもらうべく試みることを薦める。

家賃は寮により異なるが朝・夕食込みで1学期3000SGD弱。私の滞在していた場所はCAPTというUTOWN内の寮の6人部屋で、エアコン無しの部屋だったが扇風機を付けて窓を開ければ快適に生活できた。6人用でも独立の寝室が与えられるためプライバシーは確保される。リビングとシャワー・トイレは共用である。1人部屋ではトイレ・シャワーがフロアごとでの共用(6人部屋より使用する人数が多いうえ、割り当てられた部屋によっては部屋から遠いこともある)、かつリビングが無いので施設面で6人部屋の方が優れていると感じた。またルームメイトの存在も、言うまでもない6人部屋の大きな利点である。

私の滞りしたCAPT(College of Alice and Peter Tan)は2012年にオープンしたばかりであるが『コミュニティ』を理念に掲げており、寮内にはHouseと呼ばれるコミュニティが存在し生徒同士の交流が活発であった。3フロアずつまとめて1Houseとして交流会などを行うもので、私が留学中に得た親友はほとんどが同じ寮・同じコミュニティ出身である。共同生活を通して得られる人間関係はやはり強固かつ貴重であり、CAPTに滞在できたことは留學生活のなかでもとりわけ貴重な財産である。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は蒸し暑い。室内ではエアコンがきつくストールや上着を常に携帯していた。現地学生は皆Tシャツ・短パン・ゴム草履というかなり適当な恰好で生活していて、汗をかいたらすぐにシャワーを浴びる(現地の友人は1日3回浴びるという)。

交通機関は主にバス、MRT、タクシーである。メインキャンパス内は広かつ起伏が激しいため学内バスが運行している。UTOWNから最寄り駅までは徒歩15分程度、メインキャンパスからは最寄り駅に学内バスで10分もあれば着く。日用品はUTOWN内のドラッグストアやスーパー、あるいはUTOWNの北門から出て徒歩20分弱(あるいは96番のバスで10分程度)にクレメンティという地区があったのでそのショッピングモールで済ませることが多かった。食事は、朝晩は基本的に寮の食堂で、昼はUTOWN内のフードコートで食べるが多かった(UTOWN内・Koufuというフードコートのチキンライスが美味しい)。

当初イメージしていたよりシンガポールははるかにアジア的であり、欧米への留学とは一味違った経験となった。言語的にも完全な英語圏ではなく、英語(シングリッシュ?)が使えれば問題無く生活できるものの至るところで中国語が飛び交っている。人々の価値観や文化などはアジア的であり非常に親しみやすかった(例えば、家の中では靴を脱ぐ)。お金の引き出しは楽天銀行のカードを作り、VisaPlusの機能を使ってATMで行っていた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

大学周辺を含め全体的に治安が良く、夜間でも安心して移動できた。医療面では大学内の保健センターが東大と同様充実している印象を受けたが、ビザ申請の際のCTスキャン以降利用する機会は無かった。健康管理については健康を何回か引いた程度で特に問題無かったが、渡航直後、試験後等は体調を崩しやすいので気をつけてほしい。

また、室内外での寒暖差が大きいため最初は身体に負担がかかるのが感じられるが、慣れれば平気である。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

12万円前後。交換留学のためNUSの授業料は免除、教科書を必要とする科目では教科書代としては一科目あたり100SGD前後の出費を見込んでおいたほうが良いが、基本的に教材はオンライン配信あるいは印刷して配布されるためほとんどの授業で教科書は必要無かった。家賃は4ヶ月で3000SGD(30万円弱)なので1ヶ月あたり8万円弱と見て、それに加え主に昼食・寮で食事が出来ない土日の食費として1ヶ月に100SGD(8000円)前後は使っていたような気がする(フードコートの食事は安く、レストランやカフェでの食事は日本より高いのがシンガポールの特徴である)。法学部キャンパスへの通学やその他の外出などで移動が多く、交通費は1ヶ月に40~50SGD(3000円程度)だったかと思う。加えて初期費用としてタオルケット、デスクランプ、湯沸器、ドライヤーなどの購入で200SGD(18000円程度)掛かった。

・留学に要した費用総額とその内訳

怖くて正確には計算していないが、航空券代を入れて160万円前後(そのうち90万円は奨学金でカバー)要したと思われる。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO・毎月10万円支給・国際課への問い合わせ。奨学金については国際課で応募から渡航中の支給手続までフルサポートしてくださり、大変有り難く心強かった。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

先にも書いたが友人との食事や外出、女子会の企画、寮の交流会への参加、寮主催の募金活動や地域住民との交流会への参加、ホストファミリーとの交流、東大OB・OG会への出席など積極的に人との交流に努めた。語学面でプラスになっただけでなく、生涯を通じて大事にしていきたいと思えるような素晴らしい人間関係を築くことができた。毎週日曜日には留学前より興味があった太極拳を習いに行っていた。また、移民労働者の人権保護に取り組む現地のNGOでボランティアとして働き、UPR Follow-up Report(国連自由権規約委員会に提出するためのレポート)等の執筆に携わるとともに、ASEAN地域のNGOが一堂に会する会議にも参加する機会を得て、東南アジア各地の人権活動家や法律家との間にネットワークを築くことができた。日本が移民労働者のより積極的な受け入れに向けて舵を切ろうとしているいま、東南アジアでの移民労働者の実情や法律上の問題点などを垣間見る機会はタイムリーかつ貴重であった。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生へのサポートは万全であった。特に寮を始めとする設備面のサポートは素晴らしかった。大学側のサポートに加え、ホストファミリー、現地学生など色々な人が様々な場面で手助けをしてくれた。

生活面でのサポートとしては、ホストプログラムが大変充実している。とりわけ私のホストマザーは並々ならぬ手間と時間をかけてくれた。毎週末食事に招待してくれたばかりか、旅行や外出を企画してもらい、麻雀のルールを教わり、色々な話を聴くことができ、生活面精神面ともに大きな拠り所となった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

寮の施設は新しく清潔でこれまでにない快適な生活ができ、UTOWNにはPC部屋・自習室・スターバックス・ジム・プール・書店・アイスクリーム屋・フードコート・コンビニ・ドラッグストアなど生活に必要な施設が一通り揃っていた。図書館では紙の本の貸し出しは時間制限があるなどして少々不自由であったが、オンライン書籍の充実ぶりには目を見張るものがあった。また、学内では椅子と机があれば必ず近くにコンセントがあり、パソコンの充電に困ることはなかった。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

留学を終えたいま、生涯を通じて東南アジア地域に関わって行きたいと強く希望している。

留学中、日本企業が数多く東南アジア地域に進出し現地に高品質の製品・サービスを届けているとともに現地においてもまた雇用を生み出すなど経済に大きく貢献していることを目にしてきた。このように、日本の産業(ものづくり、サービス産業など)をより積極的に世界に発信することで国富を増大させることに加え、現地の経済的・社会的発展にも貢献することで国際貢献にもつながる、という日本と進出先とのwin-winな関係を作り出し、サポートしてゆくことに興味を持った。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

就職活動の情報を得るためホームページを見たり、現地のOB・OGとの交流を行ったりしていた。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)

6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

① 留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

外の世界に身を置いてはじめて、生まれ育って来た環境やこれまで持っていた常識を相対化する視点を得、当たり前だと思っていた日本の社会・文化が多くの点においてむしろ例外的かつユニークであることに気づいた。それは同時に日本の良さを再評価することへと繋がっていった。日本製品や日本式のサービスに表れる日本人の感性のきめ細やかさ、美意識の高さ、長年の歴史で醸成されてきた深みのある文化などに改めて驚くと同時に、日本に生まれたことを幸運だと思うようになった。同時に日本の外の世界をもはや『異質なもの』と感じず、むしろ親しみすら覚える自分に驚いた。シンガポールという国際都市で多様な文化、多様なバックグラウンドを持つ人に触れ、格段にオープンマインドになったと感じる。

同時に、シンガポールでアジア各国出身者と話すにつれ日本のアジアにおける存在感の大きさを再認識した。例えば日本一国の経済規模は未だに ASEAN10 カ国全て合わせたよりも大きく、日本企業は現地に多数進出し経済に深く関わっている。ASEAN 地域や中華圏での文化的影響力も大きい。とりわけ日本語学習者の数の多さには目を見張るものがあった(普通に生活していて1日に数人は日本語学習者に会う)。一方で、私たちより下の世代では日本のポップカルチャーよりも K-pop や韓国ドラマが人気であること、韓国製品が存在感を増して来ていること、シンガポールのランドマークであるマリーナベイサンズの建設を請け負ったのは韓国企業であることなどを聞き、また、中国を始めとするアジア諸国からの留学生の勉強熱心さと向上心の強さを見るにつけ、他のアジア諸国が勢いを伸ばす中、国際社会における日本のプレゼンスが将来どうなるのか危機感を感じた。

留学先選びは本当に重要であると思う。違う場所に留学していたら、おそらく全く違う経験をし、違う価値観を持っていたであろうと思う。何より今回の留学ではホストマザー、現地での友人、先生方をはじめとした多くの魅力的な人と出会うことができた。多様なバックグラウンドと価値観を持つこうした人々は私の眼前に新しい世界を開いてくれたばかりか、時に良い理解者となり様々な場面で助けてくれた。"Home is where the heart is" という諺があるが、素晴らしい人脈ができるにつれシンガポールに愛着が湧き、今では第二の故郷のように感じられる。

また、留学前後・留学中を通して法学部の和仁先生をはじめ、国際課、法学部教務係の皆様非常に非常にお世話になった。留学で得た経験を今後の人生において何らかの形で活かすことがせめてもの恩返しだと思っている。

② 留学後の予定

まずは将来の進路を決めたい。大学卒業後はすぐに就職し、何年後かに大学院留学をしたいと考えている。また、将来は日本・東南アジア地域双方に関わる仕事をしたいと考えている。

③ 今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

何も恐れることなく、とりあえず飛び込んでみてください。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

東大 Go Global ウェブサイト。

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

